



八鹿青溪

貫徹 慎独 創造

学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

令和4年6月28日発行
第7号

養父市立八鹿青溪中学校
兵庫県養父市八鹿町九鹿201-4

養父市の未来を考える

6月20日(月)市長出前授業実施
養父市の未来の一翼を担うのは中学生



養父市の未来を担う本校生徒6/20

養父市市長様に来校いただき、3年生を対象に「養父市の未来について考える」機会を持ちました。養父市ではより住みよい町づくりのため2030年の市の姿を示し、これまで大切にしてきたもの（歴史・文化・伝統）にあわせて、新しいデジタル技術を導入して、メタバース、ドローン・フィールドなどの整備が始まっています。授業の後半には市長様の話を踏まえて、各自が疑問点を質問しました。その内容は、メタバース実施の理由、就農者同士のコミュニティについて、ドローンの活用状況はどうか、などです。こういった機会には、「〇〇を作って」とか「〇〇を新しくして」と市に頼む意見が出がちですが、そういったことは一切無く、養父市が考えている未来についての質問ばかりで感心しました。

生徒にはこのような授業を契機に、「養父市、そして八鹿をより良い町にするために私たちが養父市についてできることはないだろうか。」といった考えを持ちたり、伝統的な養父市の祭りや地域の清掃活動、ボランティアに参加したりするなど、中学生ができることで養父市の発展に協力したい、という気持ちを高めてほしいと考えています。

養父市は池田草庵、上垣守国氏をはじめとした歴史に名を残す先人を数々輩出してきました。これらの先人は、常に挑戦心を持ち続けさまざまな成果を残しておられます。「私たち中学生は養父市の2030年の姿の一翼を担っている。」と本校生徒も養父市の中学生として改めて自覚し、挑戦心を持って更に伸びていってほしいと願っています。

授業参観実施

6月第3週は部活動参観週間で、最終日の6月18日(金)には授業参観も行いました。今年度初めてとなる今回は、5、6校時の授業を参観していただきました。日頃あまりお見せする機会のない生徒たちの授業や部活動の様子、学校の雰囲気を知る良い機会にさせていただけたと思います。一方で、保護者の方にご協力いただいたアンケートには多くのご意見を頂戴いたしました。これらを今後の授業につなげていきたいと思っております。お忙しい中ご参加いただき、また感染防止対策へのご協力も併せて、保護者の皆様のご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



1年生(保健体育)

進路学習会「高等学校学校説明会」開催

6月14日(火)、PTA学年委員様の司会進行のもと、3年生は保護者の方も一緒に進路学習会(高等学校説明会)を行いました。当日は本校から卒業生が多く進学している7つの公立高校から先生をお招きし、各高校の説明を受けました。この時期には本校に限らず、多くの学校で同じように説明会が行われています。もうすでに3年生は、各高校について自分なりに「〇〇高校はこんな学校」とイメージしている部分がありますが、そのイメージが正しくなかったり、勝手に思い込んでいたりしていることがあります。だからこそ、このように、直接、高校の先生の話聞く機会は重要です。

公立高等学校は、授業時間や年数、カリキュラムなどの学習様式の違いによって全日制・定時制・通信制の3つの課程に分かれています。それらの課程には普通科、商業科、工業科、総合学科などがあり、その中にはいくつかのコースや類型が設けられています。兵庫県内の公立高校では一人ひとりの個性や長所を伸ばすため、魅力や特色のある学校づくりが進んでいます。公立高校入試では、一般入試の他推薦入試・特色選抜入試があり、更に一般入試には「複数志願選抜」と「単独選抜」などの多様な入試方法があります。一人ひとりの適性や能力を生かして適切な高校を選択するためには、現在の入試制度について理解しておくことが大切です。私立高校の説明会は生徒を対象に10月に実施予定です。



説明会の様子

新しい学びのスタイル 学習ツール(eライブラリ)の活用を勧めています

タブレット端末は、生徒が「自ら考え主体的に行動できる力」を身に付けるためのツールとして活用しています。特に家庭学習では個々の習熟度や学習進度に沿って学習できる学習ツール(eライブラリ)の活用を勧めています。学習ツール(eライブラリ)では、eライブラリの「高校入試過去問」を使って入試対策もできます。期末テスト対策にも十分対応しています。eライブラリ内で学習をすると、その様子が一目瞭然で、担当教科の先生にもすぐに伝わるので、学習したことに対する的確なアドバイスも受けやすくなります。



また、コミュニケーションツールがあり、タブレット内で学校から学習指示(課題を出す)をしたり、生徒側から先生に質問したりできます。今では実際に私(校長)へも家庭学習の様子や定期テストに対する意気込みなどを伝えてくれる生徒もいます。ご家庭でお子さんがタブレットを開いておりましたら、是非、その活用の様子をご覧ください。

コミュニケーションツールのメッセージ紹介

○今は、入学式の時よりも友達が増えました。宿題も増えてきています。今は、テスト期間でとても大変です。5教科の課題をしなければいけないからです。課題が少なくなっているので自学もしています。校長先生のメッセージを見ると、3年生が、自分から自学をしていると書いてありました。僕は、自学をしているけど、しているといってもテスト期間や、一週間に1ページするくらいです。なので、今のうちに3年生みたいに、自分から自学をやっていきたいです。長文、失礼しました。(5月)

○今日、eライブラリをしました。地理、英語、数学などをしました。地理では、今までした世界の気候をし地理のドリルも分かりました。英語では、小文字や大文字などをし、I amやI am goodなどをしました。数学では、今日したことや今までしたことのドリルをしました。素因数分解などがあまりできなかったのですが、できるように復習していきたくです。中間テストでいい点数がとれてなかったので、取れるようにドリルやノートを見て覚えて期末テストに向けていい点数が取れるようにしたいです。(6月)

※「生徒一人ひとりの学びが多様な他者とつながることで質の高い学びになる」と言われ、タブレットを活用した学びは「新しい学びのスタイル」と言われます。そして「新しい学びのスタイル」は自分から進んで実現することにより価値があります。今のところ、送られてきたメッセージには全員返信をしています。